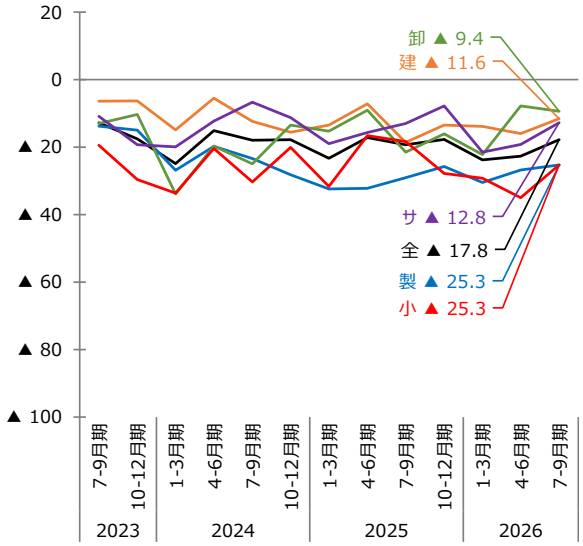
第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　北海道

１．業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より4.9ポイント増の▲17.8と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、建設業、製造業で上昇し、卸売業で低下した。

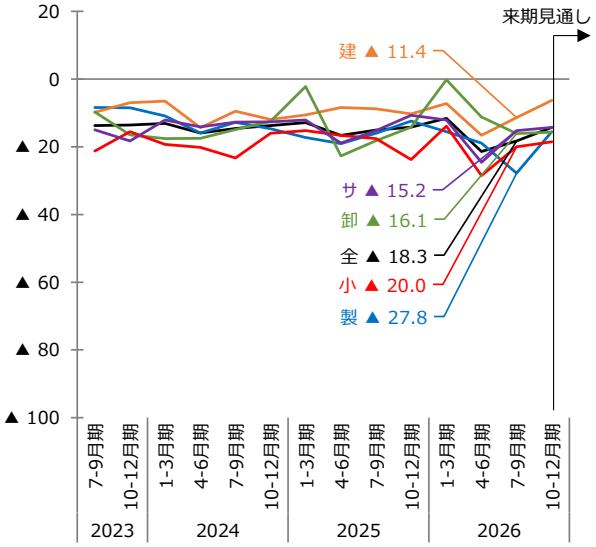


業況判断ＤＩ（今期の水準）



※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）

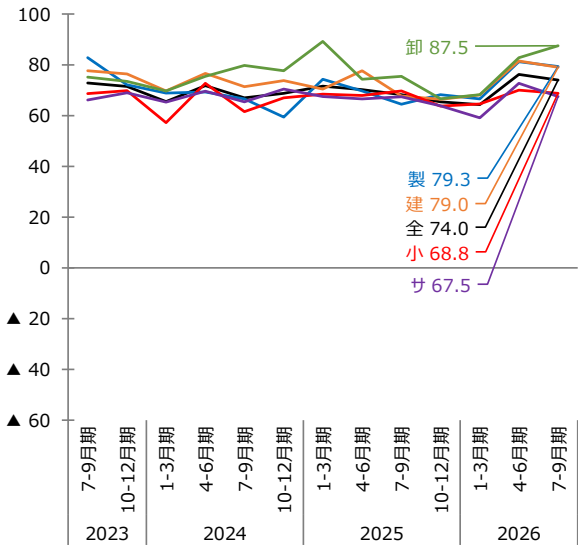


※前期（2026年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

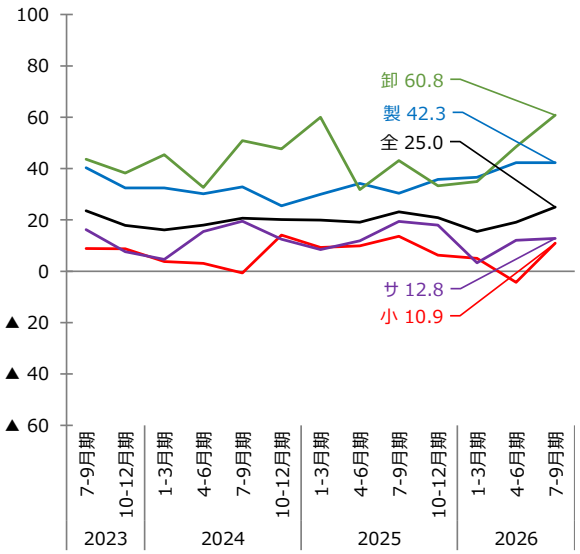
原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.2ポイント減の74.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業、建設業、製造業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.9ポイント増の25.0と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、卸売業、サービス業で上昇し、製造業で横ばいとなった。

原材料・商品仕入単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

売上単価・客単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,829　有効回答企業数：17,902　有効回答率：95.1%　うち、北海道：725企業

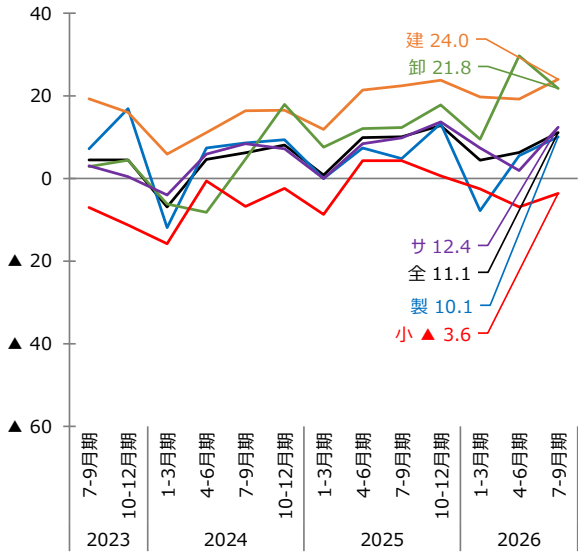
※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　北海道

３．採算

採算DIは、全産業で前期より4.8ポイント増の11.1と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業、製造業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。

採算ＤＩ（今期の水準）

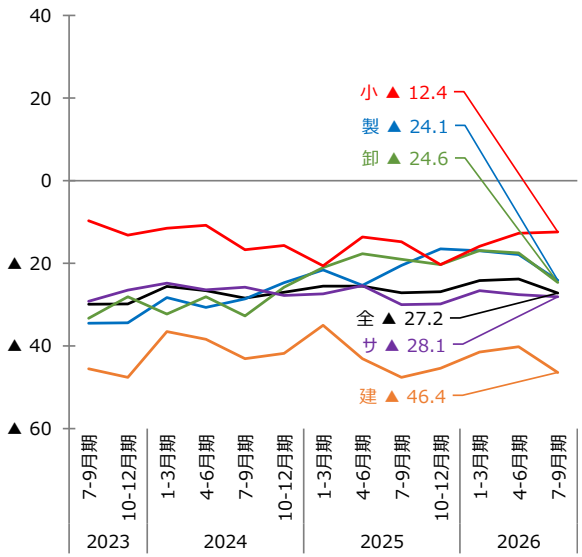


※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.4ポイント減の▲27.2と4期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業でやや上昇し、卸売業、建設業、製造業、サービス業で低下した。

従業員過不足ＤＩ（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

５．北海道の中小企業の声

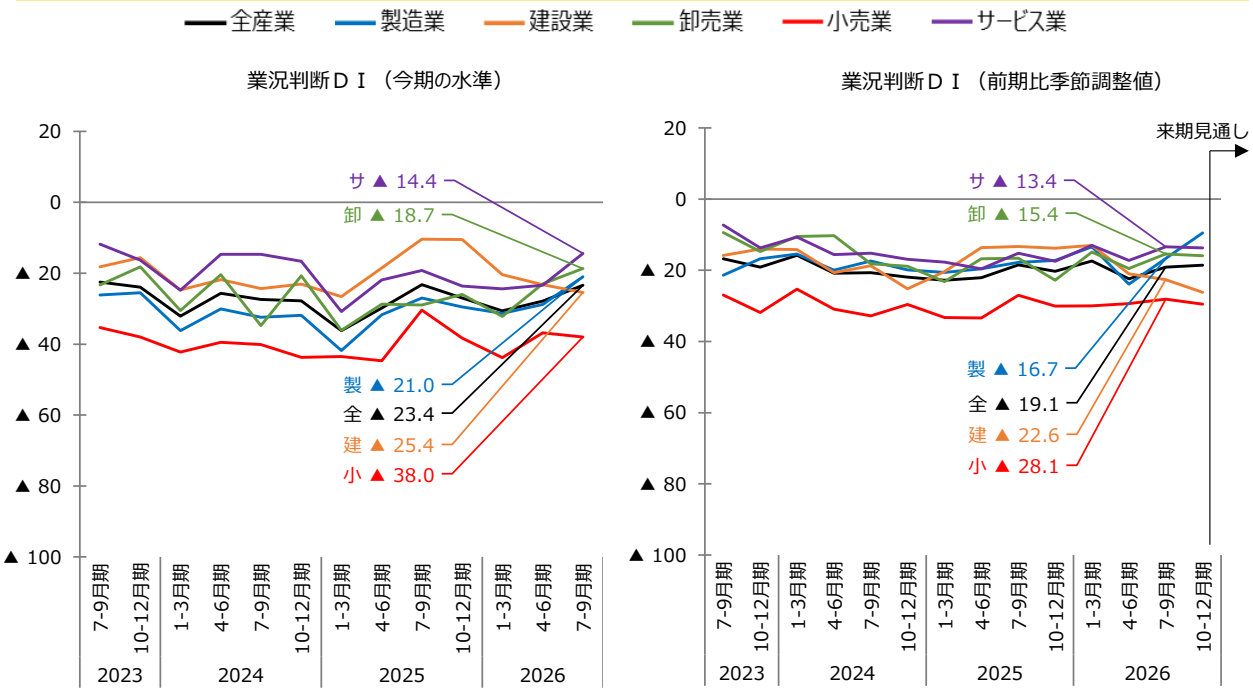
	業況判断の背景	業種	
現状	７月～９月間は、生産の最盛期となる。 現状、末端の消費動向が悪く（国内・輸出先）受注減少気味であるが、見込み生産を実施している。今後の消費動向に注意している。	製造業	段ボール箱製造業
	新幹線トンネル工事の請負があり、業況は良い状況である。	建設業	左官工事業
	今年度は受注が集中しており、業況は良好。しかし、次年度は受注減少が予想されるので、業績の低下が心配である。	卸売業	鉄鋼粗製品卸売業
	経費の増加は、販売原価としてようやく組み入れることができるような消費マインドになってきた。所謂売価を上げても許容される状況になってきたと感じる。利益率を上げることが可能になったと思う。	小売業	鮮魚小売業
	売上は減少しているものの、外注費、その他の経費を削減し、何とか利益確保している。今後、安定した経営のため、長期借入金を含めた資金繰りの強化が課題。	ｻｰﾋﾞｽ業	その他の建物等維持管理業
見通し	１０月開店の大手スーパーの影響を注視。消費税の食品減税等、変化に対応していかなければならない。	製造業	すし・弁当・調理パン製造業
	引き続き世界情勢が不安定な中、今後の経済状況により工事発注や利益にどのような影響が出るのか依然として見通せないと感じている。	建設業	鉄骨工事業
	地政学的リスク、為替リスクによる様々な価値の変動が止まらず、また、労働者不足など複数絡む大きな問題が生じている。先行きは見通すことが出来ず不安しかない。	卸売業	その他の建築材料卸売業
	８月に店舗兼住宅を購入し移転。１０月にオープンを予定しており、資金繰りの好転が見込まれる。	小売業	果実小売業
	２０２５年度は前期比１０％程度の増収となり、今年度も同水準の受注を確保する見通しで、業況は堅調に推移している。	ｻｰﾋﾞｽ業	その他の土木建築サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　東北

1．業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より4.5ポイント増の▲23.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、建設業、小売業で低下した。

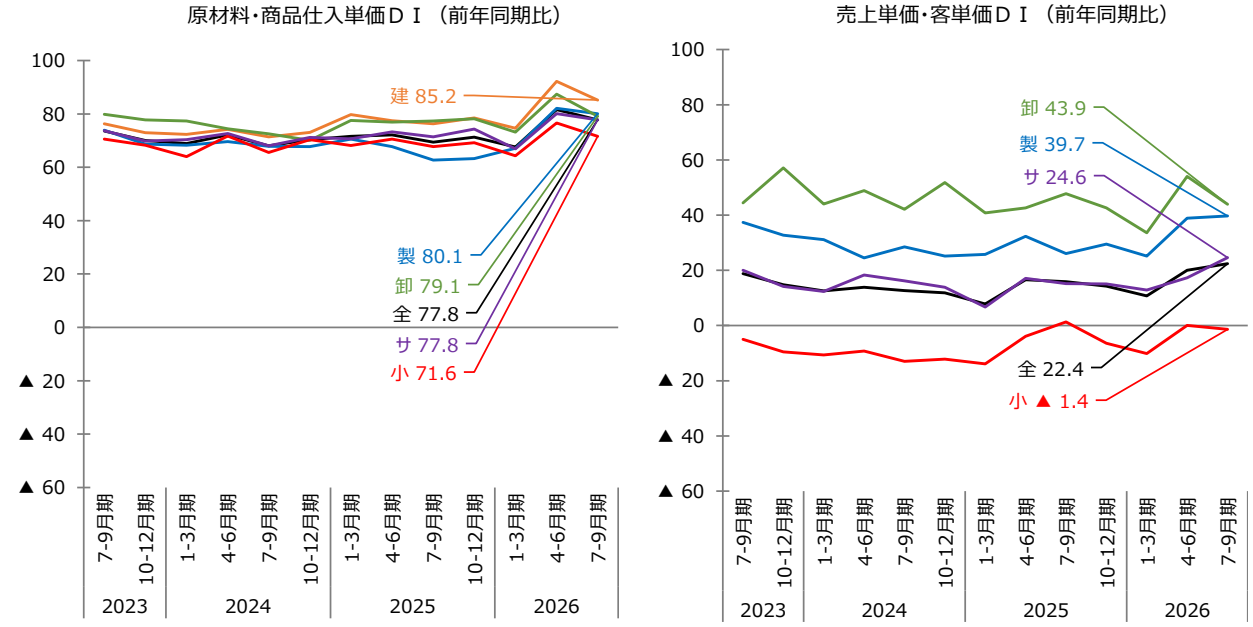


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2026年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.8ポイント減の77.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント増の22.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,829　有効回答企業数：17,902　有効回答率：95.1%　うち、東北：1,816企業

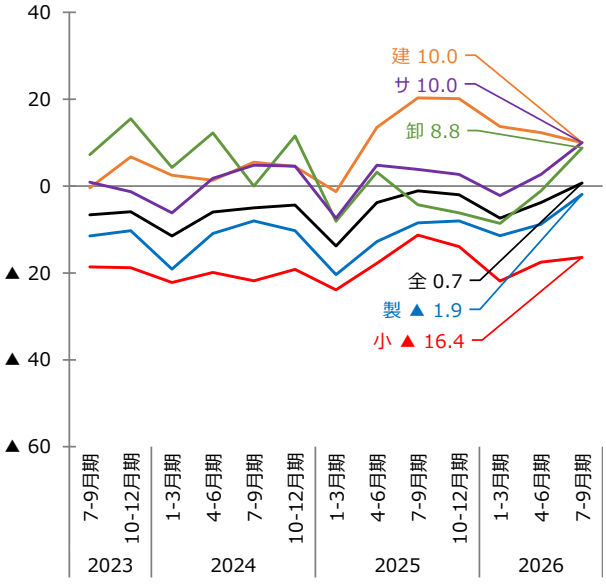
※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　東北

3．採算

採算DIは、全産業で前期より4.5ポイント増の0.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業、小売業で上昇し、建設業で低下した。

採算ＤＩ（今期の水準）

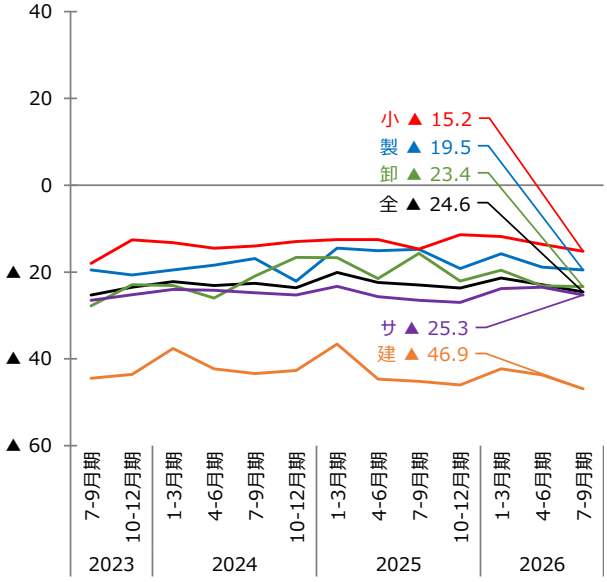


※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.7ポイント減の▲24.6と2期連続して低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。

従業員過不足ＤＩ（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5．東北の中小企業の声

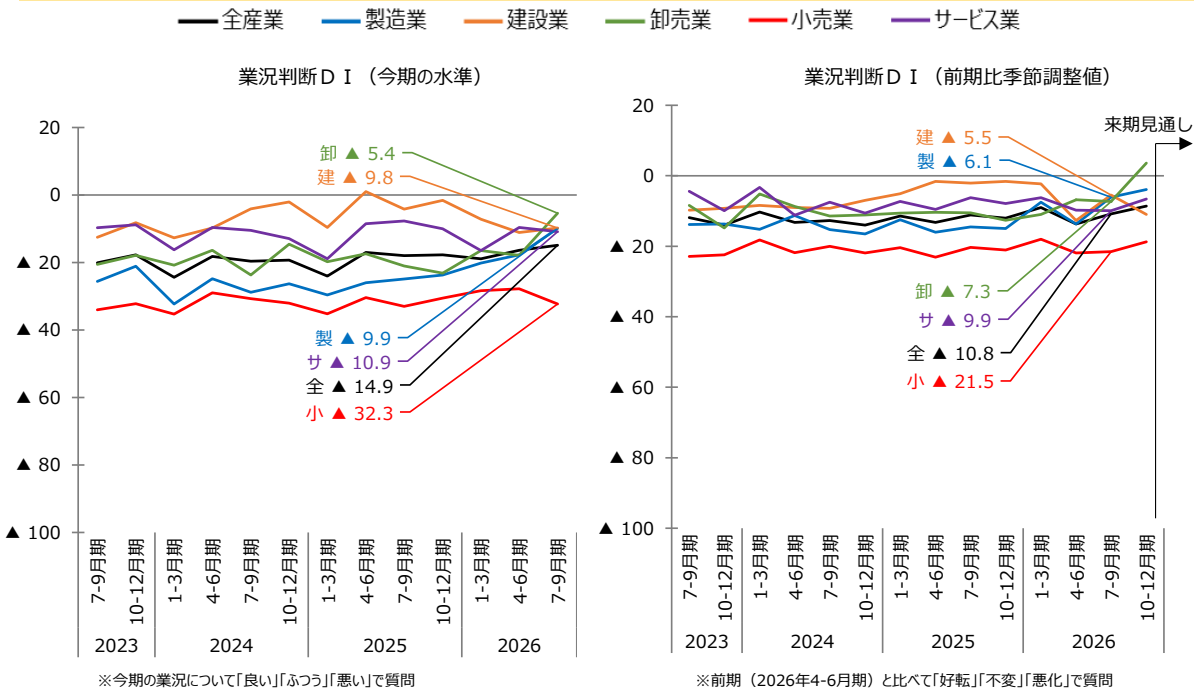
	業況判断の背景	業種	
現状	デジタル化の進展によるＷｅｂ通販への流入が今後増える中で、自社の新商品・新サービスの提供が出来ず、ズルズル売上が落ちる。一人営業の辛さを強く感じる。	製造業	オフセット印刷業（紙に対するもの）
	公共工事が増加したため、売上額が増加した。今後も民間工事と公共工事のバランスを見ながら受注していきたい。	建設業	一般電気工事業
	現在は半導体特需で活況だが、熊本地震、中東情勢、中国レアメタル輸出規制の影響で見通しがたたない。	卸売業	その他の産業機械器具卸売業
	照明器具ＬＥＤ化、エアコン２０２７年問題があるため、駆け込み需要の増加による売上ＵＰとなっている。	小売業	電気機械器具小売業（中古品を除く）
	今季の状況は、前年同期と前期に比べても整備売上・車両売上ともに増加した。特に車両販売台数が順調に伸びているのが要因である。	ｻｰﾋﾞｽ業	自動車一般整備業
見通し	今期は主要取引先以外の新規受注が増え、売上増加につながった。来期は繁忙期のため売上はさらに増える見込みだが、原材料費の高騰分を単価に反映できなければ、利益は減る可能性がある。	製造業	他に分類されない鉄鋼業
	中東情勢の影響により、工期が延期になっている。工期の長期化により、人件費や現場経費が増加し、大きな負担となっている。今後も資材不足が続けば、さらなる工期延長やコスト増加が懸念される。	建設業	鉄筋工事業
	中東情勢の影響で商品の確保が大変だった。今は仕入上昇、販売単価上昇で売上単価は上がるが、今後は低下すると思われる	卸売業	紙製品卸売業
	猛暑により季節家電の販売が好調で景況は良好。一方、不安点として補助金による需要の前倒しである点や、購入権が高齢者から子世代に移り量販店との価格比較によるキャンセルが増加していることが今後の不安点。	小売業	電気機械器具小売業（中古品を除く）
	もうすぐ開店９年目になるが、店舗・キッチンカー営業どちらも客が定着してきている実感がある。季節で変動するが、年間を通して変わらぬ業況と感じる。仕入単価が少しでも下がるのを期待する。	ｻｰﾋﾞｽ業	他に分類されない飲食店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　関東

１．業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より1.5ポイント増の▲14.9と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、建設業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。

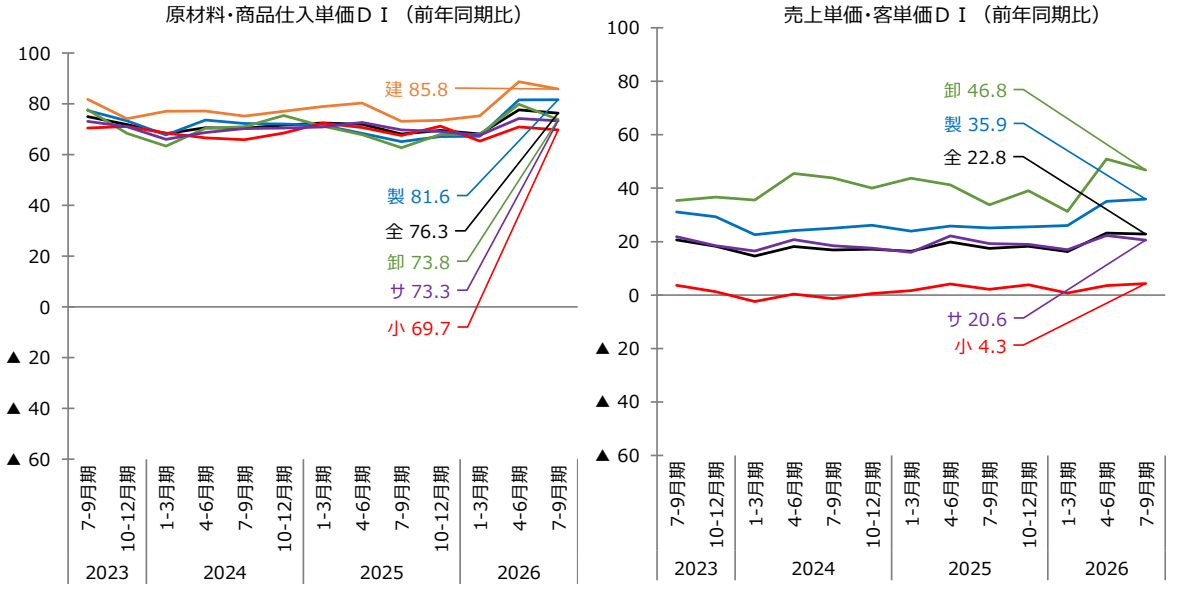


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2026年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.3ポイント減の76.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業でやや上昇し、卸売業、建設業、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.4ポイント減の22.8とやや低下し、2期ぶりの低下となった。産業別にみると、製造業、小売業でやや上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

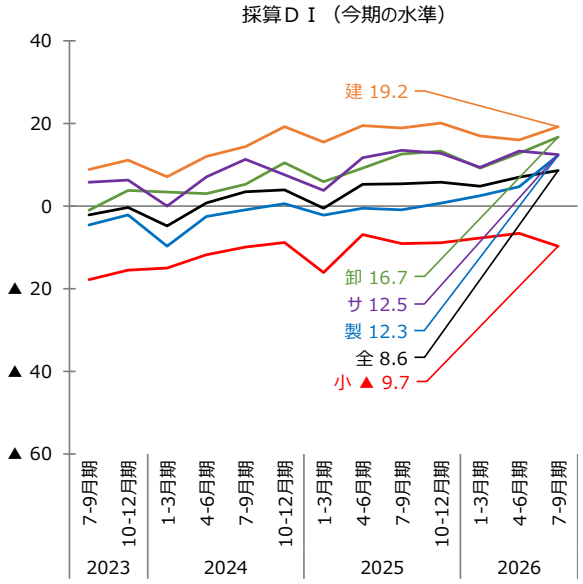
今期の調査対象企業数：18,829　有効回答企業数：17,902　有効回答率：95.1%　うち、関東：4,847企業

※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　関東

3．採算

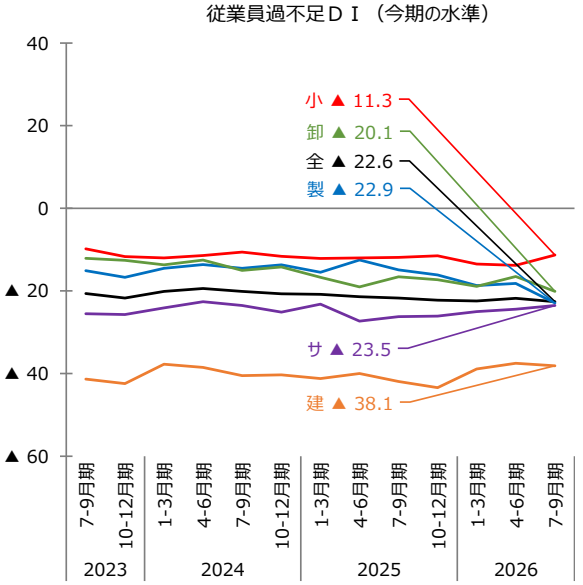
採算DIは、全産業で前期より1.6ポイント増の8.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、建設業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.8ポイント減の▲22.6とやや低下し、2期ぶりの低下となった。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、製造業、卸売業、建設業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5．関東の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	徐々に生産数が増えてきた。しかし、原材料価格をはじめ金型部品、副資材などあらゆるモノの値段が上がり、価格転嫁が追い付いてない状況である。	製造業	その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業
	引合い増加に伴い、業況も良く好景気な感触である。雇用する余力はないため、工事期間が長期化している。	建設業	内装工事業
	生花生産者の高齢化、後継者不足、生産量の減少など売上に繋がる要素がマイナス傾向。国産品の減少に伴い輸入品に移行するにも円安により利益が薄くなる。各市場でいかに商品を増やし、小売店に提供できるかが今後の課題である。	卸売業	他に分類されないその他の卸売業
	切削加工の需要が増える一方、超硬製品の主要原料であるタングステンは中国からの輸入停滞が続き、安定供給の見通しが立っていない。今後、供給不足や原材料価格高騰による製品価格上昇が懸念される。	小売業	無店舗小売業(機械器具小売)
	製造業向けのＡＩセミナーが好調であり、高評価を受けている。玉石混交の状態になってきており、利用者が「ニーズがあるが利用目的は不明確」という状況になっており、顧問契約にはつながらない。	ｻｰﾋﾞｽ業	インターネット利用サポート業
見通し	塩ビ材料が入手困難になっている。原因は大企業の買い占め。二年先まで買い占められており、中小企業に回ってこない。	製造業	その他の電気機械器具製造業
	ハウスメーカーとしては、職人不足を背景に受注は堅調であるが、消耗品の値上がりが顕著となっている。パネル工場からの納期遅延により稼働日が減少し、生産計画への影響が懸念される状況にある。	建設業	木造建築工事業
	発電機械用さび止め剤の売上が好調な一方、米国経済などの不振を受け、自動車部品輸出用のさび止め剤の先行きが不透明。	卸売業	その他の化学製品卸売業
	過去の借入の返済額が大きく、売上を上げても返済に回すと赤字である。そこに、近くに新しく薬局が建つことが決まっており、今後の経営はさらに悪化することが予想される。	小売業	調剤薬局
	現状、冬季受注予約が今年並みに確保されているので不変的な保持を想定している。しかし、マネーファースト投資と短期回収をもくろむ事業者による事業環境荒廃への懸念、経済巡回の持続性への不安につながっている。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

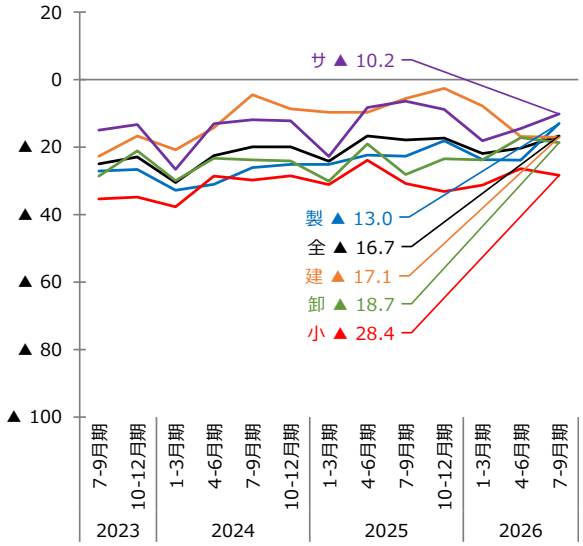
第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　中部

１．業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より3.6ポイント増の▲16.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業、建設業で低下した。

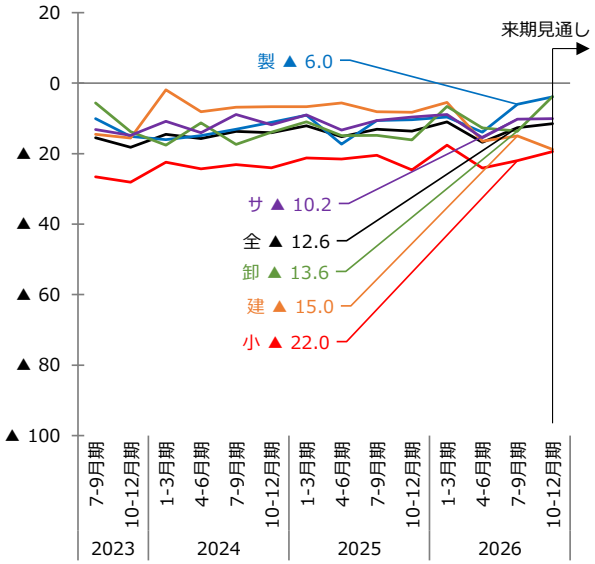


業況判断ＤＩ（今期の水準）



※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）

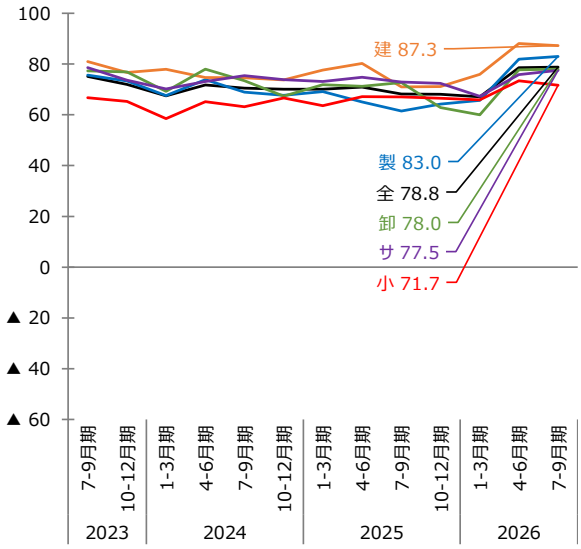


※前期（2026年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

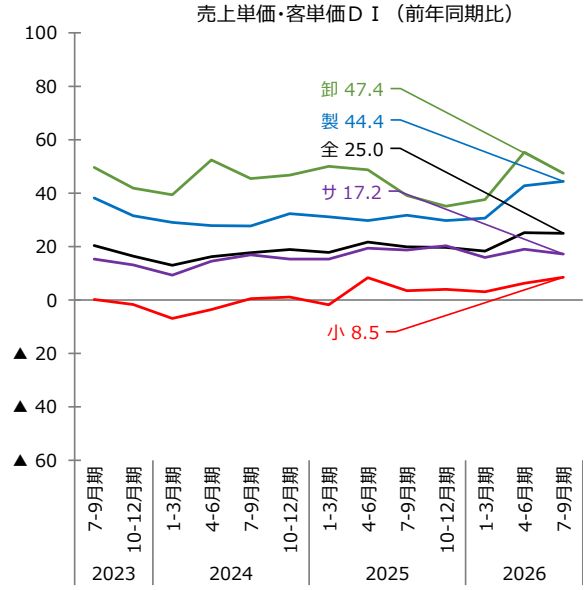
原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の78.8とやや上昇し、2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、小売業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の25.0とやや低下し、2期ぶりの低下となった。産業別にみると、小売業、製造業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。

原材料・商品仕入単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

売上単価・客単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,829　有効回答企業数：17,902　有効回答率：95.1%　うち、中部：2,290企業

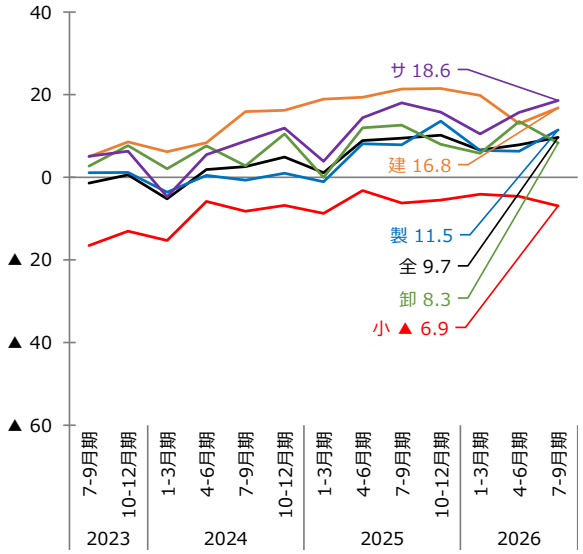
※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　中部

3．採算

採算DIは、全産業で前期より1.8ポイント増の9.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。

採算ＤＩ（今期の水準）

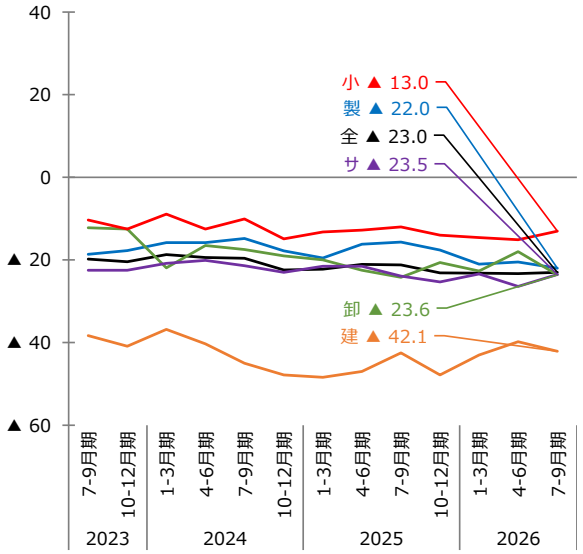


※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.3ポイント増の▲23.0とやや上昇し、5期ぶりの上昇となった。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、建設業、製造業で低下した。

従業員過不足ＤＩ（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5．中部の中小企業の声

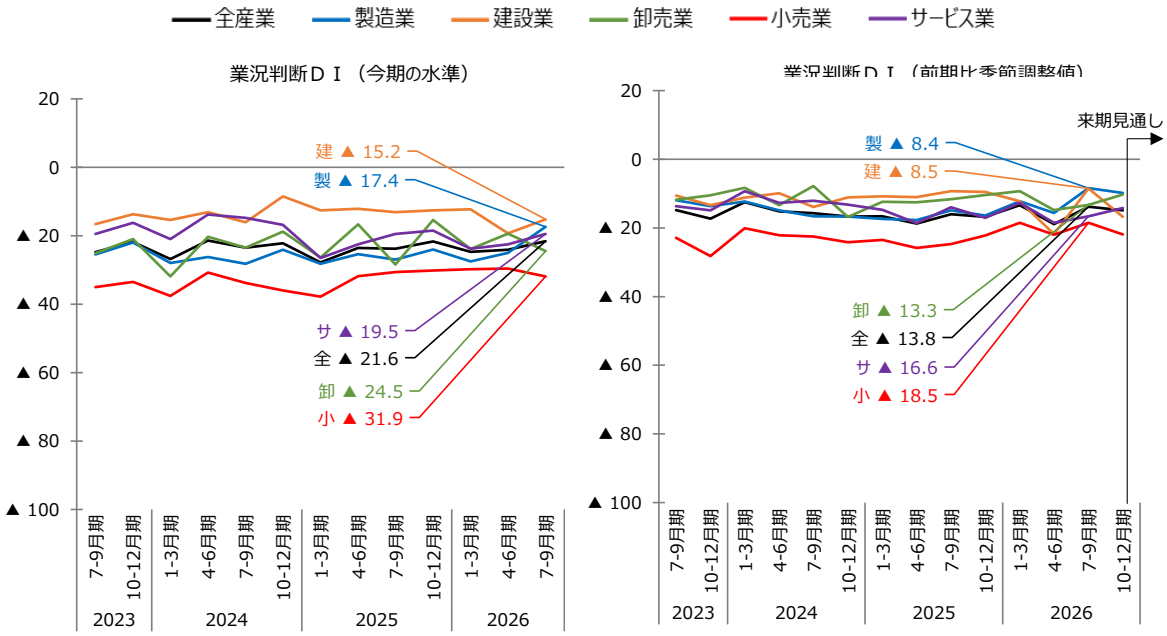
	業況判断の背景	業種	
現状	価格転嫁交渉は一段落し、売上高も例年並みを確保しているが、人件費や調達物資価格の上昇、包装工場の減価償却費が重荷となり、利益確保は依然厳しい。申請中の製品の許可・販売による業況改善を期待している。	製造業	医薬品製剤製造業
	受注を受ければ仕事は沢山あるが、人手が足りずに受けることを断っている。外注に頼むと高額な請求になるので検討している。瓦やアルミサッシが３割強高騰し、収益はほとんどない状態である。	建設業	木造建築工事業
	高付加価値化粧品はコロナ禍以降変わらず低迷。低単価の商品を増やし、需要の喚起を促すも苦しい状況。一方、健康意識の高まりから健康食品関連は新規も増加。だが化粧品の落込みをカバーするに至っていない。	卸売業	化粧品卸売業
	物価高の中、消費者の世代の変化が早まっていると感じる。今まで売れていた商品がぱたりと売れなくなり、まったく売れていなかった商品が求められたりする。	小売業	食料品スーパーマーケット
	お木曳き行事が終了し、猛暑も相まって、集客数がぐんと落ちてしまった。	ｻｰﾋﾞｽ業	喫茶店
見通し	自動車関連は昨年の米国関税の影響による減産から脱却しつつある。ＦＡ関連は、ＡＩやデータセンター需要に後押しされ、今期は大幅な受注増が期待できる。	製造業	アルミニウム・同合金プレス製品製造業
	材料の入手難と価格上昇が４月初め頃から顕著になった。その影響で一時的に景気後退感もあったが今は回復しているように思われる。今後は価格上昇による民間需要の停滞が心配である。	建設業	板金工事業
	原材料の供給が不安定で価格が上昇し、プラスチック食器類や陶磁器食器類の製造が制限されて仕入商品の価格上昇が止まらず、売上・利益の見通しがつかなくなっている。	卸売業	他に分類されないその他の卸売業
	地域のプレミアム商品券発行により前期と比較して一時的に売上が増加した。エアコンの買い替え需要が年末にかけて増加することを期待している。	小売業	電気機械器具小売業(中古品を除く)
	千葉県の洪水など災害が相次いで起こっており、中古車の需要が上がってきているので、その需要は更に上がると思われる。この対応について考えていかなければならないと感じている。	ｻｰﾋﾞｽ業	自動車一般整備業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　近畿

１．業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より2.5ポイント増の▲21.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。

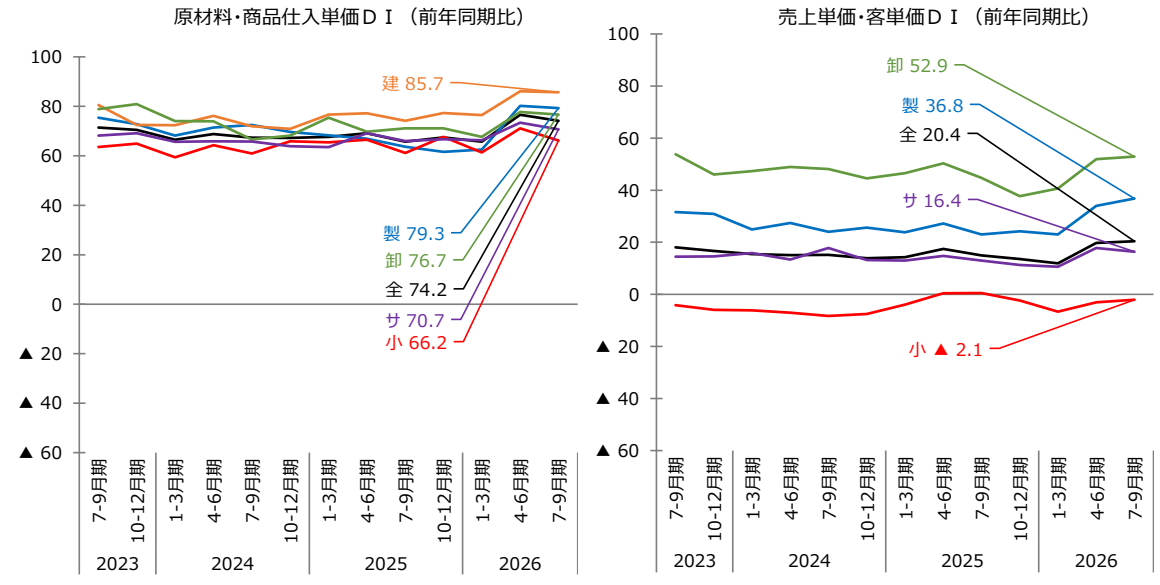


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2026年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の74.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.7ポイント増の20.4とやや上昇し、2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,829　有効回答企業数：17,902　有効回答率：95.1%　うち、近畿：2,527企業

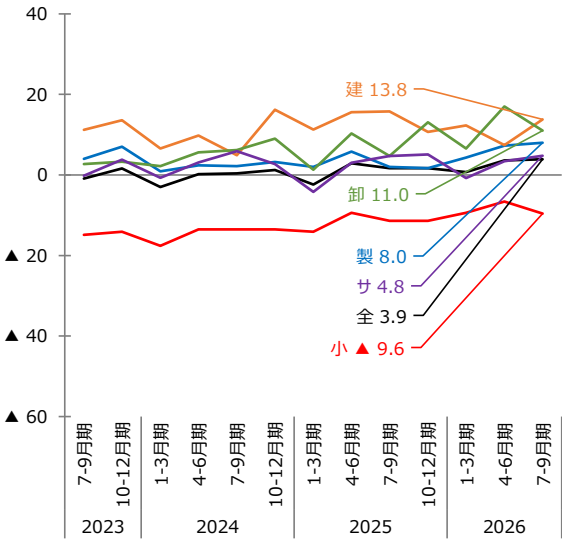
※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　近畿

３．採算

採算DIは、全産業で前期より0.3ポイント増の3.9とやや上昇し、2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。

採算ＤＩ（今期の水準）

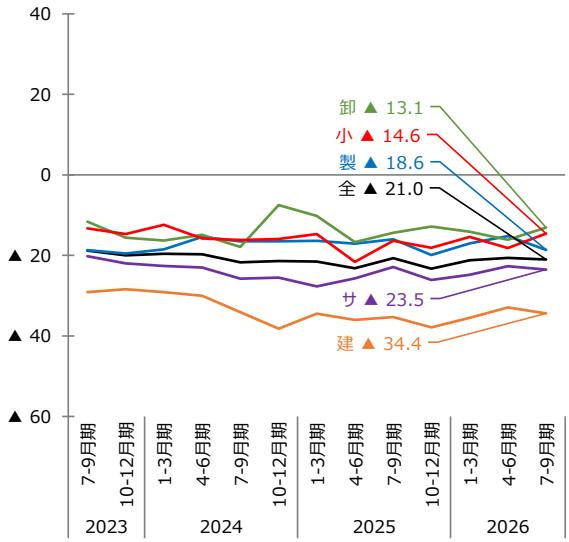


※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.4ポイント減の▲21.0とやや低下し、3期ぶりの低下となった。産業別にみると、小売業、卸売業で上昇し、製造業、建設業、サービス業で低下した。

従業員過不足ＤＩ（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

５．近畿の中小企業の声

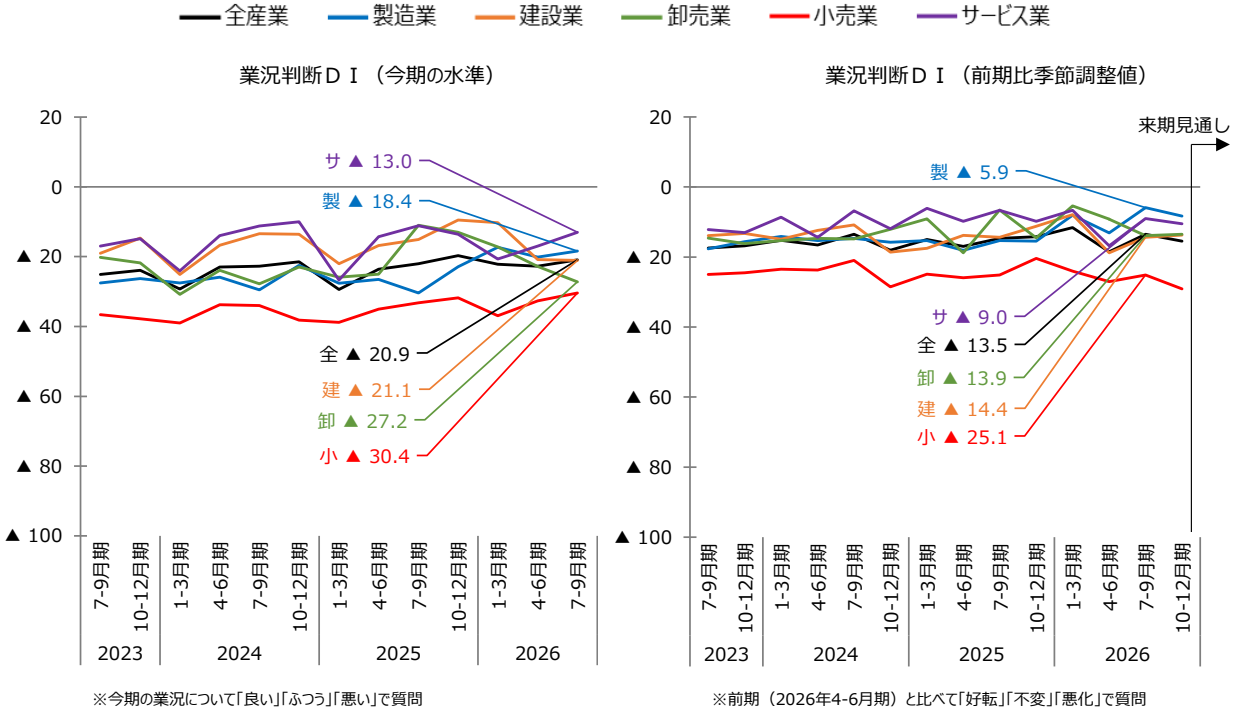
	業況判断の背景	業種	
現状	中国経済の停滞及び中国企業との競合による製品の見直し等や海外の安価な部品との競争が入って来て、単価も上げにくくなってきている。	製造業	金属工作機械製造業
	内製化の推進と人材確保が進み、幅広い業務に対応できる体制が整っている。また、対応力の向上により取引業者も増加しており、業況は順調に推移している。	建設業	一般土木建築工事業
	エアコン２０２７年問題、各種商品値上げ前の駆け込み需要が続いており、売上伸張。需要先食い感が強く、下期以降要注意。経費・支払金利の上昇などの負担増が懸念される。	卸売業	電気機械器具卸売業(家庭用電気機械器具を除く)
	例年以上に平日、お盆期の来店数が伸び、業況は好調に推移。既存客の販売率の高さに加え、専従者１名による体制で販売単価を抑えた適正価格の提供が支持を集め、７月以降の客数増加と良好な売上に寄与した。	小売業	菓子小売業(製造小売)
	返済金（借入金）減少に伴い、マイクロバス購入のためリース料金が増加。全般的に売上が良くなってきている。できるだけ経費の削減を目指していく。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル
見通し	８月より市内に新倉庫を借りることができ、リカバリウェアの製造を進めていく予定にしており、金融機関からの借り入れや補助金の採択を受けることができ、今後の見通しは明るい。	製造業	ニット製アウターシャツ類製造業
	建設工事の予算が少なく発注工事も昨年より減っている。来年以降も不安である。	建設業	土木工事業(別掲を除く)
	業績は概ね堅調に推移しているが、中東情勢を受けた石油関連商品の値上げや在庫不足の影響が続いており先行きは不透明。また円安傾向が継続した場合には業績悪化要因になるため為替推移も心配している。	卸売業	その他の各種商品卸売業
	イランからの物流が既存ルートを使用できず、トルコやアゼルバイジャンなど複数国を経由する代替ルートしかなく、コストが３～５倍に上昇している。当面は在庫で賄えるが、１年後など長いスパンで見ると不安が残る。	小売業	洋品雑貨・小間物小売業
	物価高騰、賃上げが利益を圧迫、今後消費税率もテイクアウト等が１％になると飲食店の店内飲食売上減が予測され、飲食店にとっては非常に厳しい状況が予測される。	ｻｰﾋﾞｽ業	酒場，ビヤホール

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　中国

１．業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より1.8ポイント増の▲20.9と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、製造業で上昇し、卸売業、建設業で低下した。

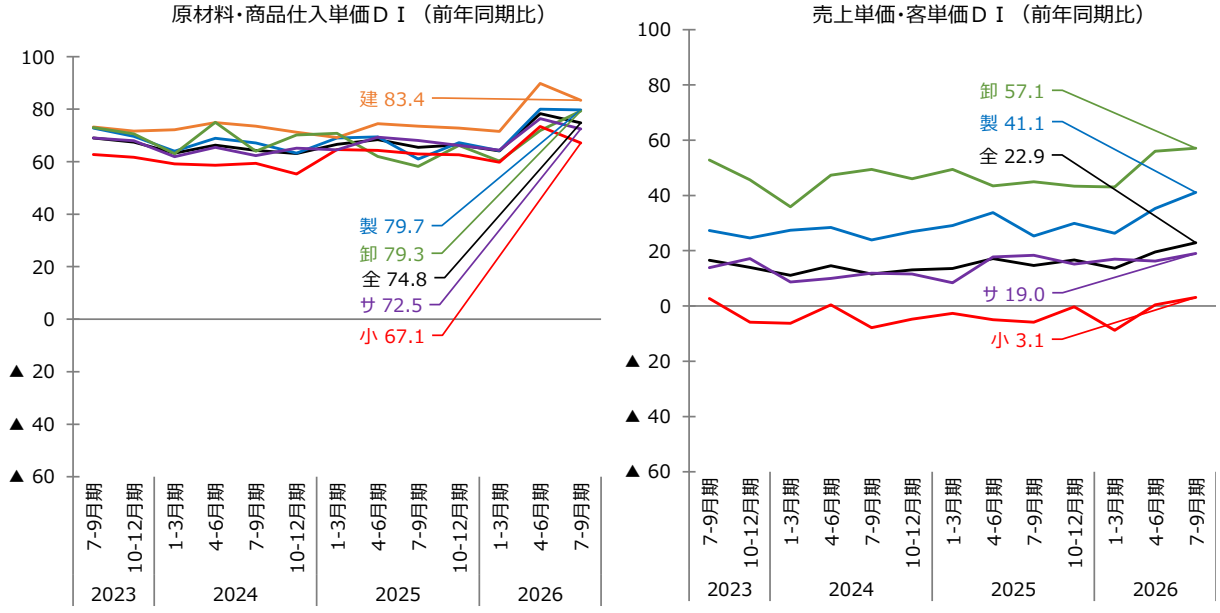


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2026年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.5ポイント減の74.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、小売業、サービス業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.4ポイント増の22.9と2期連続して上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,829　有効回答企業数：17,902　有効回答率：95.1%　うち、中国：1,655企業

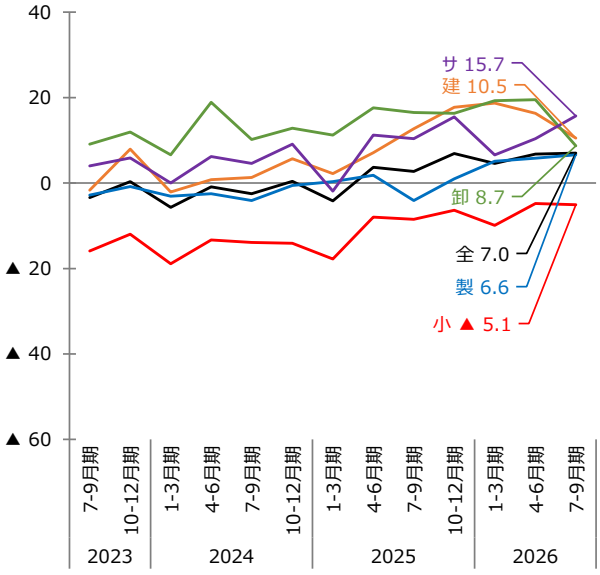
※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　中国

３．採算

採算DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の7.0とやや上昇し、2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、建設業、小売業で低下した。

採算ＤＩ（今期の水準）

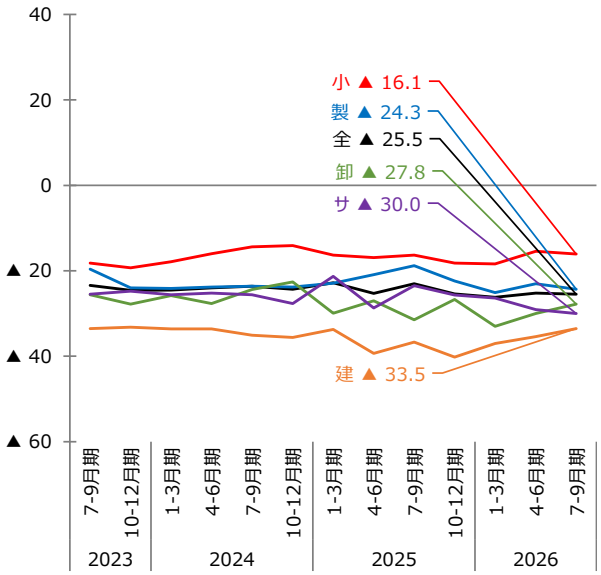


※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.3ポイント減の▲25.5とやや低下し、2期ぶりの低下となった。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、製造業、サービス業、小売業で低下した。

従業員過不足ＤＩ（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

５．中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	牡蠣のへい死により、仕入れ牡蠣の単価上昇・原料及び資材・人件費高騰を要因に販売価格の交渉を進めている。しかしながら、安価な韓国産牡蠣に切り替える業者もあり、苦戦を強いられている。	製造業	冷凍水産食品製造業
	工事料に対して、施工を担う技術者の不足が続き、体制の維持に不安がある。材料の入手難もあり、工程の確保が難しくなっている。	建設業	一般土木建築工事業
	ＦＡ事業は製造業の設備案件増加。「冷住」事業も猛暑による需要増とリニューアル案件が増加。データセンター等の電力需要増加により県外で蓄電所案件の引合いが多い。	卸売業	電気機械器具卸売業(庭用電気機械器具を除く)
	販売する春の苗が販売時期の雨（悪天候）、また７～８月の高温、少雨で植えてもできなかった。これから苗を蒔いても、天候による影響により生育が悪いと思われる。	小売業	苗・種子小売業
	業務依頼（受注）は問題ないが、ワーカー不足になっている。労働時間改正等、労働者は時間の規制を望んでいない。	ｻｰﾋﾞｽ業	ビルメンテナンス業
見通し	２０２７年６月までの受注が確定しており、２０３０年までは好調であろうと言われている。ホルムズ海峡の問題により材料確保が難しくならないか懸念される。	製造業	他に分類されないプラスチック製品加工業
	今期は民間工事の受注が増えたので好転したが、来期は資材の高騰などの影響により、民間受注が減少すると思われるので、来期の見通しが不安定である。	建設業	一般土木建築工事業
	市内における一般住宅の新築、リフォームの物件数が減少気味なため、売上に影響を受けている。さらに仕入高の転嫁が一部出来ていない物もあり、今後に不安を感じている。	卸売業	木材・竹材卸売業
	今期も経営業況は悪化している。物価がますます上昇し、消費者の買い控えが続いており、経営が好転する兆しはないように思われる。	小売業	食料品スーパーマーケット
	仕入資材（石油製品：接着剤、シンナーなど）の入荷が通常翌日に届くものが１か月半かかっており、その遅れによりサービス提供に不安がある。	ｻｰﾋﾞｽ業	衣服裁縫修理業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

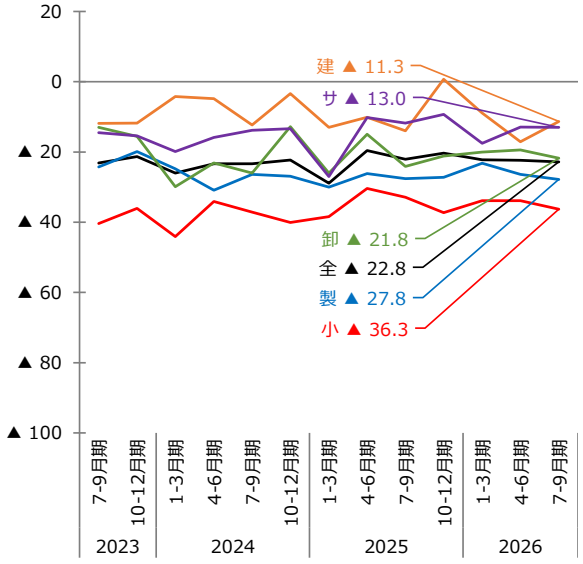
第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　四国

１．業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より0.4ポイント減の▲22.8とやや低下し、3期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、小売業、卸売業、製造業、サービス業で低下した。

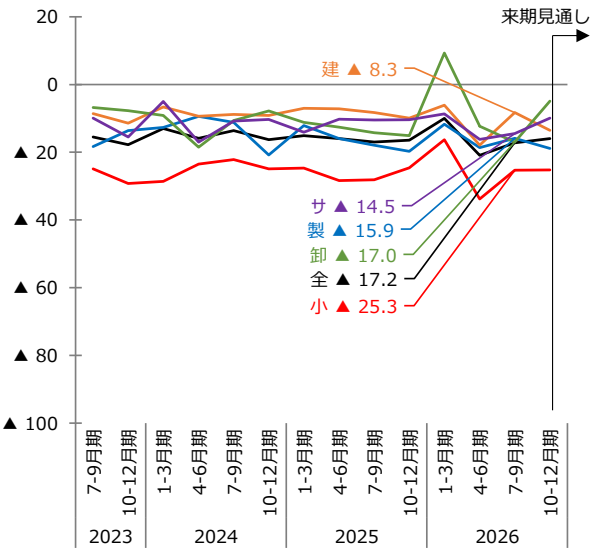


業況判断ＤＩ（今期の水準）



※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）

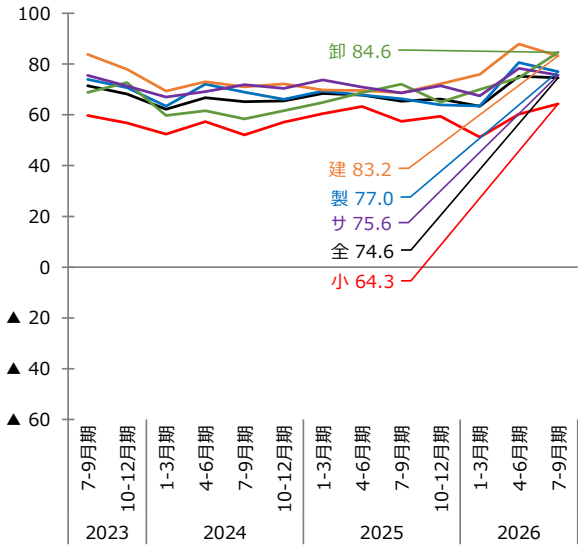


※前期（2026年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

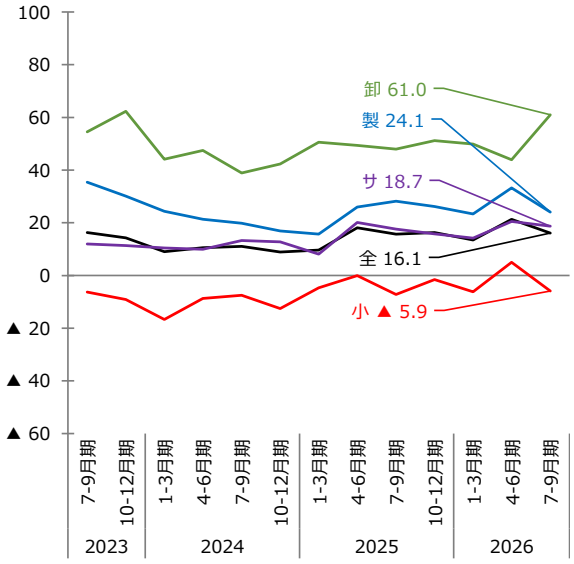
原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の74.6とやや低下し、2期ぶりの低下となった。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、建設業、製造業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.2ポイント減の16.1と2期ぶりの低下となった。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、製造業、サービス業で低下した。

原材料・商品仕入単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

売上単価・客単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

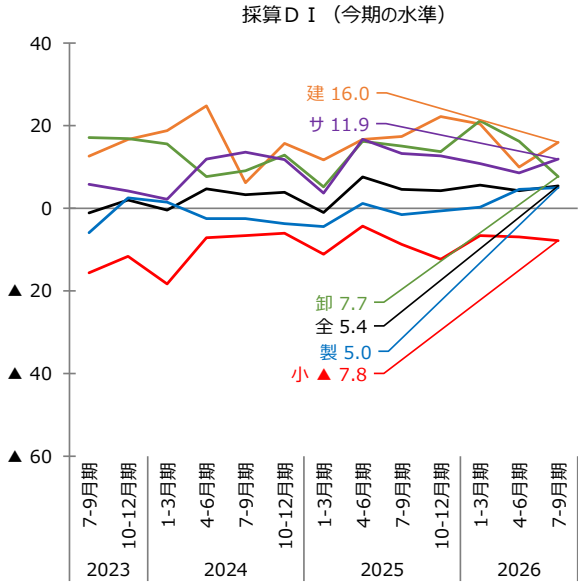
＜調査概要＞　調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,829　有効回答企業数：17,902　有効回答率：95.1%　うち、四国：1,281企業

※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）　四国

3．採算

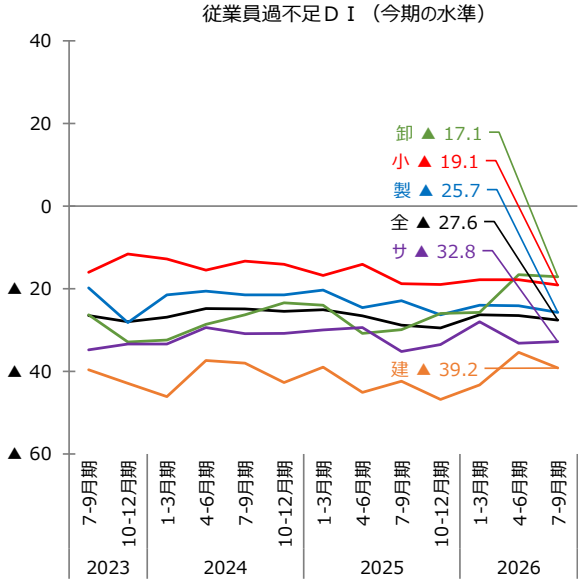
採算DIは、全産業で前期より1.1ポイント増の5.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.1ポイント減の▲27.6と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、建設業、製造業、小売業、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5．四国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	ライフスタイルの変化に伴い、法要の簡素化が進み、仏壇・位牌等の需要が低迷している。これにより売上が減少しており、今後の雇用維持と経営安定に向け、雇用調整助成金の活用も視野に入れている。	製造業	宗教用具製造業
	仕事量は確保できているものの、従業員の高齢化や人材不足が課題となっており、労働力確保のため、来年４月からミャンマー人材を受け入れ、雇用する予定である。	建設業	一般土木建築工事業
	自動車業界はＥＶ化に向けて大きく変わっている。弊社では十数年前からこの流れを予測し、準備、対応してきた。その結果、需要をしっかりと取り込めている。	卸売業	自動車部分品・附属品卸売業(中古品を除く)
	アリーナ効果、インバウンド等で人通りは確かに多く感じるが、本来の顧客の減少状態が続いていたり、様々な値上げにより消費がより節約志向になり、小売業としてこれから非常に厳しくなると思われる。	小売業	洋品雑貨・小間物小売業
	昨年に続き、８月については観光客の動きがあった。宿泊単価も需要の高い日程には高く変動させたが、特に評価を落とすことなく、単価上昇に成功した。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル
見通し	通年は、春が売上増となるが、今期は夏が多くなっている。納品先は、納品スペースがないように聞くが、注文は多い状況である。今後、反動が出るかは未定であるが、注視する必要がある。	製造業	生薬・漢方製剤製造業
	外的要因が不明瞭であるとともに、人口減少の事などもあり、先の見通しが立ちにくい業況である。	建設業	一般土木建築工事業
	建築資材の値上がりや住宅着工件数の減少等の影響で、当社取扱商品の需要低下が懸念される。	卸売業	その他の建築材料卸売業
	酷暑の影響で飲料などの需要は増えて売上は上昇したが、経費と仕入が増加して、今期は収支トントンか赤字の見込み。９月から値上げラッシュや最低賃金の底上げなど、これからも厳しくなりそうだ。	小売業	食料品スーパーマーケット
	エネルギー価格の高騰が不安要素だが、リピーター客に支えられ、現状では例年並みの売上・利益規模で推移すると見込んでいる。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

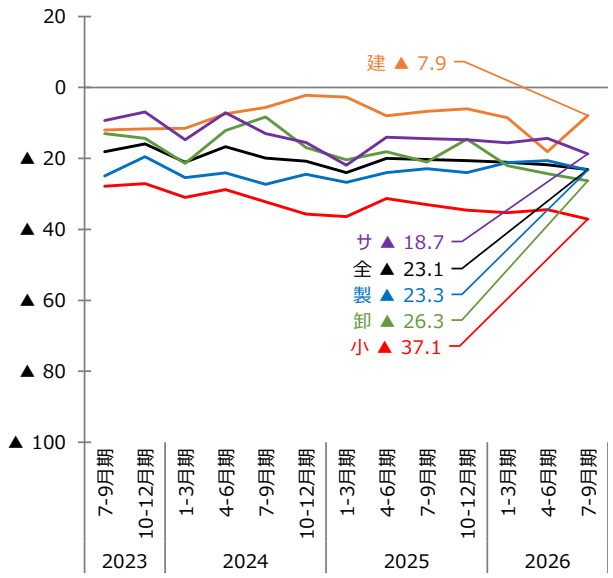
第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）九州・沖縄

1．業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より1.3ポイント減の▲23.1と5期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、サービス業、小売業、製造業、卸売業で低下した。

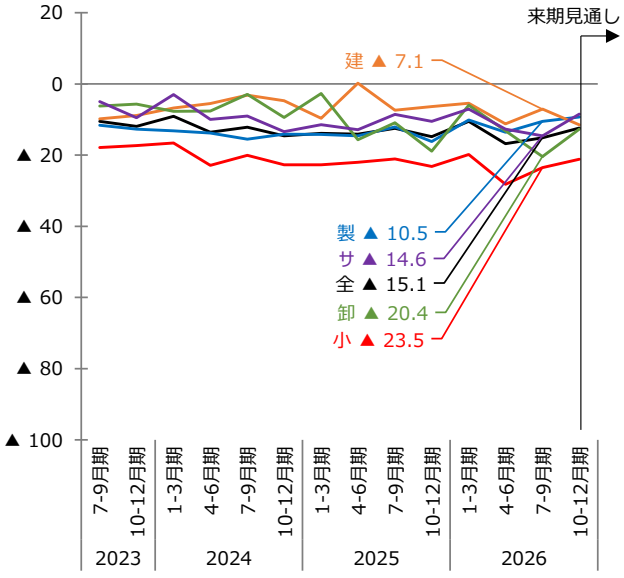


業況判断ＤＩ（今期の水準）



※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）

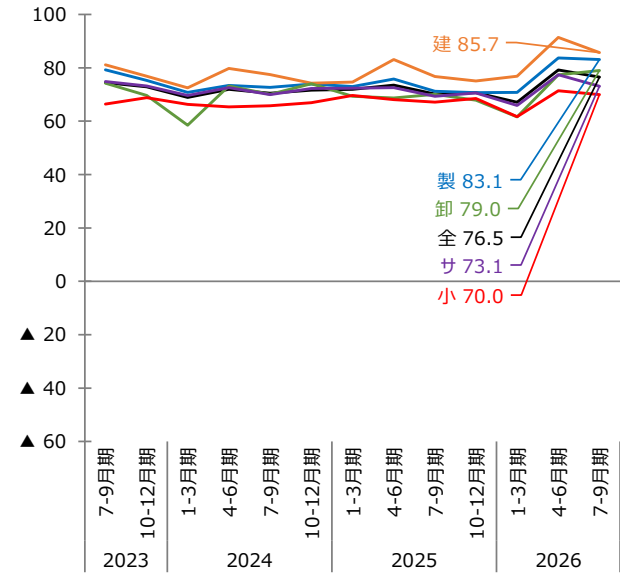


※前期（2026年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2．仕入単価・販売単価

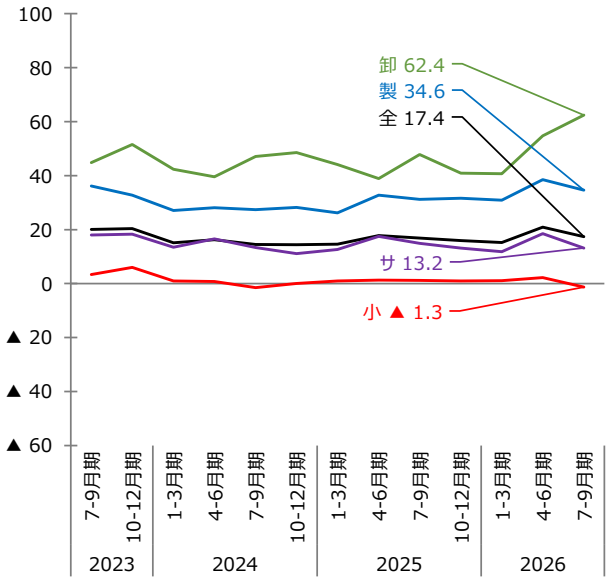
原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.7ポイント減の76.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、サービス業、小売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.5ポイント減の17.4と2期ぶりの低下となった。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業、製造業、小売業で低下した。

原材料・商品仕入単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

売上単価・客単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2025年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,829　有効回答企業数：17,902　有効回答率：95.1%　うち、九州・沖縄：2,761企業

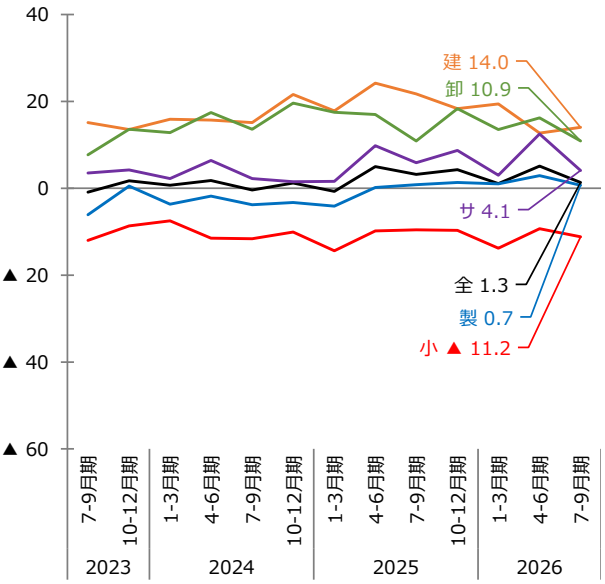
※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

第185回　中小企業景況調査（2026年7-9月期）九州・沖縄

３．採算

採算DIは、全産業で前期より3.8ポイント減の1.3と2期ぶりの低下となった。産業別にみると、建設業で上昇し、サービス業、卸売業、製造業、小売業で低下した。

採算ＤＩ（今期の水準）

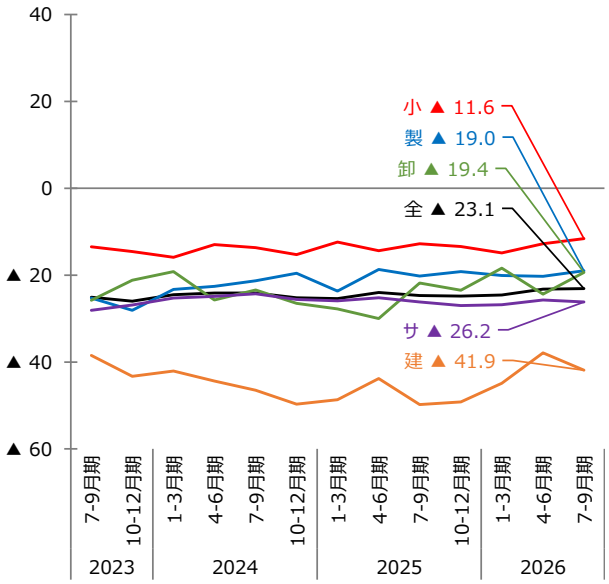


※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント増の▲23.1とやや上昇し、3期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、小売業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。

従業員過不足ＤＩ（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

５．九州・沖縄の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	半導体関連の需要が堅調に推移しており、受注状況は良好である。また、原材料費や人件費等の上昇に対して価格転嫁を進めたことで、収益面も改善している。	製造業	他に分類されない金属製品製造業
	豪雨災害により、今後の公共工事の増加が見込まれる一方、熊本地震の影響で阿蘇地区の予算が県南へ配分される可能性がある。今後の広域受注に備え、遠方地域に営業所を設置している。	建設業	舗装工事業
	災害による観光客減が飲食店の卸にも影響している。	卸売業	酒類卸売業
	猛暑により自揮及び軽油の需要が増大し売上増になった。激変緩和措置が継続され仕入価格も安定し、ある程度利益が確保できた。	小売業	ガソリンスタンド
	仕入を含む急激な物価の上昇はあるが、インバウンドを含む観光客は安定して動いている。また、駅周辺のイベント（学会・スポーツ等）の交流人口は増加していると思う。今後の見通しも期待できる。	ｻｰﾋﾞｽ業	酒場，ビヤホール
見通し	住宅資材高騰に加え、金利上昇等もあり住宅取得に向けた需要はさらに冷え込むと予想している。現時点では熊本地震による影響はないが、今後においては延期や遅延など影響があるのではないかと思われる。	製造業	一般製材業
	物価上昇、資材単価上昇の影響もあり、民間工事の受注量も減っている状況で、見通しがたたない。資金繰りは依然問題なし。	建設業	一般土木建築工事業
	猛暑で産卵が減り、全国的に品薄状態が続いており仕入が困難になる見通しになっている。	卸売業	その他の農畜産物・水産物卸売業
	お盆期間もあったため、前期よりは売上が上昇する見込み。	小売業	食料品スーパーマーケット
	イベント関連の売上見込みが、自然災害などの影響で中止となり苦戦しており、年末まで厳しい状況が見込まれるため諸経費の見直しを考えている。	ｻｰﾋﾞｽ業	広告業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)